


## 会 議 録

会 議 の 名 称	第4回 第2次宍粟市男女共同参画プラン策定委員会	
開 催 日 時	令和元年7月16日（火）14：00～15：30	
開 催 場 所	宍粟市役所 本庁舎 5階 502 会議室	
会 長 氏 名	中村会長	
委 員 氏 名	（出席者） 三渡副会長、梶浦委員、稲垣委員、中村委員、 小西委員、石原委員、野谷委員	（欠席者） 高井委員、久保委員
事 務 局 氏 名	津村部長、大田次長、西田課長、上月係長 （まちづくり推進部人権推進課）	
傍 聴 人 数	1人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1. 開会 2. あいさつ 3. 説明事項 （1）「男女共同参画ワークショップ」のまとめについて （2）第2次宍粟市男女共同参画プラン骨子案について 4. その他 ・今後のスケジュールについて 5. 閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____ 	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1. 開 会
会長	2. あいさつ このプランもスケジュール的内容的に半分以上進んだと思います。今までの中でやっていることであれば、他市にはない珍しいことは、ワークショップをやったことです。広報紙にまとめていただいているところですが、若い人たちの男女を交えた中の意見が反映できればと思っています。内容の細かいことはまた後程とさせていただきます、プランが順調に進んでいるということは、委員の皆様のおかげだと思いますので、今年もまたよろしく願いいたします。
事務局	続きます、事務局よりごあいさつ申し上げます。
事務局	昼間の会議で何かと出にくい時間帯ですが、ご出席いただきありがとうございます。平素より住みよい地域づくり、住みよい宍粟市のためにご尽力をいただいておりますことをお礼申し上げます。最近梅雨入りということで曇ったり晴れたり和不順な天候が続いていますが、昨年7月6日に宍粟市に豪雨災害が発生しています。先日1周年を迎えたところで、災害復興もまだまだ今からというところで道半ばという状況ですが、この時期、雨の予報が出るたびに大雨が降らなければいいな、昨年のような大きな災害がなければいいなと心配することになっています。さて、昨年の秋から男女共同参画プランの策定委員会でお世話になっており、今日が4回目、令和になって初めての委員会です。今日は市民のアンケートを踏まえた上での骨子案についてご協議いただく予定です。宍粟市においては、ご承知のとおり少子高齢化が進み、それに伴って人口減少が早いスピードで進んでおります。このことが喫緊の課題となっており、市役所各部署それぞれ協力して最重要課題として取り組んでおります。何より大切なことは、一つはそこに暮らし続けたい地域でなければならぬと感じております。男女性別にかかわらず地域に出ていただき、地域社会の形成に参画いただいたり活躍いただいたりすることが、今後の宍粟市の活性化、開かれた宍粟市、未来ある宍粟市につながると思います。会長が言われたように、この計画も半ば折り返したところになりました。今後よりよいプランの策定となりますよう、今しばらくのご協議をよろしくお願いいたします。
事務局	ここで、委員さんや事務局におきまして、異動や交代があり、新しいメンバー構成となっておりますので、それぞれ自己紹介をお願いします。

<p>会長</p>	<p>～自己紹介～</p> <p>これから議事に入りますので、会長に進行をお願いします。</p> <p>こういうプランを作る時にはいろんな調査をかけて現状を捉え、宍粟市をどういう市にしていくか、男女共同参画という視点でどういう市にしていくのかということをプラン化していくわけです。こうして形になってきたら大分、何合目かにきているなと思います。形にしていくというところで、骨子はできたがすべてはできないので、今回の10年プランで10年後にこういう姿にするということをめざして何を重要な柱としてやるかということが大切になってきます。プランができたというところで終わることがよくあります。プランができたのは終わりではなく大きなスタートなので、市民の意見でより生活に近いものにしておけば変化が見えたり感じられたりということが出来ると思うので、意見をどんどんいただけたらと思います。たくさん意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは説明事項を事務局より2点、よろしく願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>3. 説明事項</p> <p>(1)「男女共同参画ワークショップ」のまとめについて</p> <p>～事務局より、第2次宍粟市男女共同参画プラン（素案）にある「市民ワークショップからみる現状」に基づき説明～</p> <p>このワークショップは、会長、副会長もご一緒に参加していただきましたので、補足がございましたらお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>最初は若い方も関心がなさそうだったのですが、話が出だしたらどんどん出るのですよ。そういう場所、語り合う場所、勉強する場所というのが、若い人も当然年を取った方も、必要なのだなと感じました。</p>
<p>会長</p>	<p>私は、子育て世代が何をおっしゃっているかを聞いていたのですが、話が進むにつれ、子育てと男女共同参画が関係あるなという意識を持ってくれつつあるなと感じました。最初は夫が何もしてくれない、それは男性の問題だという感じで話されていたのが、子どもにそれを見せたくない、子どもがそれを学ぶのは嫌だという風に感じるようになってくださっているなと思いました。男女共同参画と子育ては切っても切れないところです。連休明けでしたか、子育て支援センターを回らせていただき、子育て支援員さんの現状を聞いたのですが、ジェンダーの視点が抜けているととても思いました。宍粟市だけではなく、全</p>

	<p>県的に教育現場においても、子育て現場においても、視点が抜けてきていて、20年経つとこういう状況になるのだと思いました。このワークショップの時に、若いママさんが子育てと男女共同参画は関係ないと思っていたのだなど不思議だったのですが、ああそうかということも思いました。ですからこの場というのはすごく有効だったと思いました。以降、私の行くところではワークショップをしようと思っているぐらいです。よかったですと思います。</p> <p>では、質問は後でまとめてということで、プランの骨子についてお願いします。</p> <p>(2) 第2次宍粟市男女共同参画プラン骨子案について ～事務局より、(2)について説明～</p>
会長	<p>今の説明のワークショップのところ、いわゆる若手、30代から40代の方に集まっていたらワークショップをしたのですが、そこで出た意見をうまくきれいにまとめていただいています。宍粟市の現状として問題なのは、ハラスメント、職場の問題、意識啓発をしっかりとやらないといけないとうまくまとめていただいています。このことについてご意見をいただけますか。</p>
委員	<p>よくわからないのですが、30代、40代の年代の方のワークショップということで、その年代の考え方はわかりましたが、他の年代はどう考えているでしょうか。その年代が子育ての中心になることはわかるのですが、はたして30代40代の方が環境を変えることができるのか、その辺が少し疑問です。</p>
会長	<p>若い層を集めたのには意図があるのですよね。</p>
事務局	<p>アンケート結果で若い年代層の回収率が低かったのです。宍粟市は高齢化社会なので、50代、60代の方のアンケートはかなり返ってくるのですが、20代、30代の層の本音の部分がアンケートではすごく少ないので、その年代層の方をターゲットにワークショップを開いています。</p>
会長	<p>補充するというか、子育て層のところをもう少し聞きたいということです。内容的にはどうでしょうか。</p>
委員	<p>すごく行きたかったのですが、都合が悪く行けなかったのです。関心があるなど思っていました。これはアンケートの補充として行われたワークショップだから、これに答えを求めるわけではないので、ここに出た意見にどうのこうのというのはおかしいと思います。しかし、これを使って次のステップに行く</p>

	<p>時に、男女共同参画とは宍粟市の実態で言えば、女性が女性というの当たり前前の感じだと私は思います。言葉は悪いけれど、男尊女卑の文化だと思います。常に女性がとなるが、一步引いて見た時に男も料理をしると言うけれど、自分は男女共同参画についてよくわかっていないというような人がいれば、プランができてきたら戸惑う人もいるだろうなと思います。料理をしたい人はすればいいし、苦手な人はしなくてよいという、適材適所というのか、言葉を変えて最終的にはうまくしないと、誤解を生んでしまったらもったいないことになると思います。自分がとても分かるということは、つまり女性の方が多かったのでしょうか？女性目線かなと思います。</p>
事務局	<p>女性が多く、男性は3人くらいです。</p>
委員	<p>難しいのですが、次につなげられるようにしなければならないと思います。今までそうだったのだからそれはそうだと思います。</p>
事務局	<p>アンケートの結果で、どの年代層でも性別役割分担意識が根強いです。女性が家事をして男性が働く、これが性別役割分担意識であってジェンダーと言いますが、この決めつけた考え方を払拭するような啓発を施策の方向性の1-1-1にあります。その下に性別役割分担意識を払拭するような啓発をする施策をぶら下げていきたいと考えております。難しいですが宍粟市はそういう考えが根強いので、施策にぶら下げていく必要があると考えています。また、男性にとっても意義のある男女共同参画を強調したいと考えていて、男性も働き手、稼ぎ手という思いが強くなるので、そういうジェンダー意識を男性も脱ぎ払ってもらい、自分らしく生きられる社会にしたいです。男性の方が相談機関に行く方が少なく、生きにくかったり自殺したりする方も多いというのも全国的に問題視されているので、そういった施策もぶら下げていきたいと考えています。</p>
会長	<p>おっしゃる通りで、例えば男性は料理をしないという話で言うと、まず我が家でも、する気はあるけれど技術がない、ということがあります。男性を責めるような形になってはいけないということですよね。せっかくやろうとしていることがうまく伝わりませんよね。実はこのワークショップの時にも、男性の方から、家庭内のことでできるものができることをしたらよいという意見が出ていました。具体的には草刈りは男性がして、ご飯のことは女性がしたらよいという話で、私はそれには賛同できないと言ったのです。今の状況でやれることはやれる人がしたらいいとなると、絶対に家事育児は女性に回ってきます。男性はできません。30代の男性は結構できます。ここに意識の断層、スキル</p>

副会長	<p>の断層があります。そこは、気を付けないといけないと思います。男性のためのプランでもあるということは、表現などを大事にしていけないといけないと思います。男性のための男女共同参画というのは、国が前のプランの時に大々的に打ち出されていきました。男性と子どものための男女共同参画という形でプランの柱で出ていました。今回は少しその部分は弱まっていて、防災がポイントで出てきています。</p> <p>宍粟市は、男女共同参画という言葉を出せば、女は強くなったという一声で片づけられるというようなことがとてもあります。これは男性のためでもあるということも私たちが言ってこなかったこともあります。このプランは女性だけのためではなく、男女のために、現状で人口が減っている時に女性も男性と同等のものを女性ができるためにどうしたらよいかということも女性の立場で色々なことを言っていますが、本来男女ともに、ということが前提としてあるので、宍粟市の場合は特に強調した方がよいのではないかと思います。</p>
委員	<p>田んぼと畑があり、家の周りに草も生えるので、今は田んぼをしなければならぬので妻に草刈りを投げかけたのですが、草刈り機の使い方もわからないしエンジンのかけ方もわかりませんでした。秋に、冗談でトラクターを使うよう頼んだのですが、操作方法もわかりませんでした。やはり、男女はそれぞれの持ち分があり、それを押し付けずにこれをするから、それを他のところを頼むというような、その人の力に合わせたことはできると思います。自分のところでは、私が洗い物をしています。妻はありがとうと言ってくれます。私も水仕事は嫌いではないので、することはしてあげられるができないことはできません。お互いにできるもの、できないもののカバーをすれば夫婦の仲は穏やかにいくのではないのでしょうか。お互いをカバーしあおう、私はそういう考えです。</p>
会長	<p>面白い調査をしている会社があって、共働きの20代～40代に3,000組の調査をしたところ、やって当たり前だという意識があると不満が残る、手伝いというところから抜けてこないということに対し、女性は6割不満だと言っています。私たちのめざす男女共同参画は50%50%ではありません。夫に草刈りをしろと言われたらやはり喧嘩になります。お互いが納得できることをやらないと、男も女も一緒にやればよいというわけではないです。国がやっているプランと郡部のプランが違うのは違って当たり前です。そうでないと、ものすごい違和感の中でプランができることになります。うちではごみ出し、洗い物は彼がやっています。彼のやり方に合格点と思っはいませんが、要は何かを手伝うという考えではなく、任せるといことです。分別のごみ袋を買うところか</p>

	<p>ら、ごみの集め方まで。こうした方がいいと思うことを押し付けるのは良くないです。家庭を作っていくところは大事な意識が作られるところだと思います。できれば、施策の方向性の1-1-1のところできさらに具体的にやる時に、男性のための男女共同参画という文言があれば、一つのPRになっていくのかなと思います。男性の生きづらさの方が女性よりも生死にかかわることがあると思います。自殺数が2万5千人を切ったというニュースがありましたが、一時は3万2千人の自殺数で、交通事故の1万人の3倍です。7割が男性です。</p>
委員	<p>男性の方が生死にかかわるとはどういうことですか。</p>
会長	<p>極端なことを言えば小さい時から、「男だから」と言われています。そのまま大きくなると、失敗が出来なくなります。小さな失敗でも大きなダメージになるので、しんどいと言えなくなるのです。今、女の子の方が元気ですね。女の子は少子化の中で男らしさも要求されます。女の子が何かの会長をやるといえば、そうかとなるけれど、男の子が「シンデレラが好きです」とか、「編み物が得意です」となれば、ええ？となります。優しすぎる男の子は中学の部活などでいじめられたりもします。男の子は限定されたものを求められやすいです。最近少し緩和されています。女の子は女の子らしくても男の子らしくてもいいのです。学校の間は元気ですよ。社会に出たら、女だからとびしゃっとたたかれます。それでも元気です。男の子はたたかれたら潰れます。私も男の子を怒るのは、すごく気を使っていました。私が女だったからかもしれません。潰してはいけない、その辺教師は感じていることではないでしょうか。話が飛びましたが、ワークショップから若い方の意見をいただいて、こういう問題意識を持っているということを追加した状態でプランを考えるということです。では、施策体系の新しく項目が入ったところや表現が変わったところもあると思いますが、そのあたりから何かございますか。</p>
副会長	<p>ちょっと気になるのが、第一次プランの時にチェック機能があったらよいという話をしたのですが、一度もなかったように思います。言葉は悪いのですが、プランを作っただけというようになりがちでした。宍粟市にもチェック機能がなかったように思います。その中で、チェック機能も当然明確に書いてほしいと思います。西播磨で都市部とは違うということはあると思いますが、男女共同参画が遅れているというのが現状です。その中で、人口もどんどん減っているので、男女共同参画を強力に進めないといけない時期に来ていると思います。それをするには、一次プランの時には条例を作るのが検討されるという表記でしたが、今回は条例を作ると明確に表記していただきたい、それによってぐっと進むと部分があると思います。</p>

会長	<p>施策の方向性の5-1-2に条例の制定と推進とあります。</p>
事務局	<p>目標としては、今年の後半か来年初めあたりに、目標としては持っております。</p>
委員	<p>日ごろ感じているのは、施策の方向性2-1-5、防災・復興分野における女性の参画拡大についてですが、自治会で毎月一回行っているのは自治会長と隣保組長で男の人ばかりの参加で、女性にも役員はあるのですが、会には出ないのです。昔は婦人会役員が出ることであそこにはあの方が住んでいるなどがわかりました。よその人なのか、自治会のお嫁さんなのかかわからず、この頃の若い人は向こうからあいさつをしてくれないから、防災であそこのお年寄りをどう助けるか、というのは誰の手にかかっているのかと考えます。男の人が教育をされているので、自治会へ行ってワークショップをしてそうなのだと感じてほしいです。男女共同参画というと女性を助けるような、男性は理解をなささいというような印象を受けます。実際、台所を男性が手伝おうとしたら、おばあちゃんから男は台所に入るものではないと言われて育った、というようなこともあります。そこのあたりをもう少し柔らかく、男の人を巻き込む施策、男の人をもう少し解放してあげることが出来ればと思います。だんだん家庭科もするようになり、息子の世代を見ているとこれも男の子がするのかと、進んでいることは進んでいると思うのですが…。</p>
会長	<p>40代のところで断層があると申し上げたのは、家庭科共修の教育の成果なのです。それでもしない子はしませんが、空気として学校で教えたことは割合子どもたちの中に残っていくので、人間が自立していく、食事を作り、掃除洗濯ができる、基本的なことは男も女もするのだというのは基本にあると思います。防災というのはどこのプランでも上がっていて、宍粟市でも重点項目にあがっています。おばあさんがいて、この部屋でおばあさんが寝ているというような情報は女性が知っています。婦人会がなくなり、女性がつながる場所がなくなってしまったので、個人個人は変だなと思っていても、声になる場所が無いので、場が必要だなと感じています。</p>
副会長	<p>防災の話が出ましたが、昨日一宮で社会福祉協議会主催の台風9号災害から10周年の防災フォーラムがあったのですが、女性視点が大事だという話が、男性からポンポン出ました。避難所は男でもせいぜい一週間頑張れるけど、女は…と、それ以上は言われたいのですが、そんな話が出ました。避難所で、物資をある女性グループが調達して、日が経つにつれて女性の下着が欲しいという</p>



	<p>話が出ました。婦人会があったら初めから取り入れていたはずなのに婦人会がないがために、そのグループが調達してくれたということがありました。男女どちらが強いとかそういった話ではなくて、女性目線で色々なことをしないといけないというのがあります。防災については特に女性目線、男女共同参画の視点で考えないといけないと思います。昨年もこの宍粟市で起こったのだと実感した次第です。</p>
委員	<p>あまりどうというのではなく、隣近所であれば小さいところなのである程度把握はできています。民生委員さんたちが一人暮らしの方がどこで休んでおられるかの見取り図なども市に提出しているようです。近所の者が、一人暮らしの方の様子を伺ったり、それほど大きな災害もなかったので、ある程度できるものは近所で助け合って今まではやっています。火災などがあっても炊き出しなどは女性が、片づけは男性がと出来ているので、問題としてとらえていませんでした。深く考えればいろいろ出てくるかと思います。</p>
会長	<p>いいコミュニティがあるところは女性もうまく、無意識に織りなすようにできていると思います。いざ本当に大きな、広域なことが起きた時にどうなのでしょう。</p> <p>施策の方向の2-1-5にある防災は、その上の4の地域活動における女性の参画拡大とワンセットだと思います。女性を自治会役員に入れてほしいといっても不満の声が出ます。やはりずっと男性がやってきていることです。うちの地域では婦人会はなくし、赤ん坊からおばあさんまで全員が会員だという女性の会を作りました。代表ではなく連絡係というトップを置いて、だいたい4人くらいを役員として、若い人にやってもらって、区長会に出てもらっています。一人だと出にくいのですが、4人で出ると若いから結構ものを言えます。割合女性がものを言える状況です。それでもうちは古い地域なので男性の方が向いているだろうとは思いますが。防災での切り口で、地域活動に女性を参画させていくと考えれば、一つの地域活動に女性が入っていきける切り口になっていると思います。</p>
事務局	<p>自治会とイコールなのですが、自主防災組織ですね。女性の役員さんもいらっしやいます。何人入れてくれという感じではありません。</p>
副会長	<p>私がいるところは、勝手に私になっていたのです。やめる頃になって気づいたのですが、自動的に、婦人会の代表をしているものがすることになっていました。それはどうなのかしらと思います。</p>

委員	<p>反論の余地がないですが、自主防災組織にしても男女共同参画をもって協力したいと思います。やはり男性は男性、女性は女性と分けています。組織の役割分担がありますが、5項目あり、炊き出しはやはり女性の名前が知らない間に入っています。車に乗って火事を消すのはやはり男性の仕事。これはいくら男女共同だといっても危険が伴うので、そこは分けています。男女共同参画が絶対必要かというところではないと思います。</p>
会長	<p>女性が入っているならよいと思います。</p>
委員	<p>必ず女性は入っています。年に宍粟市の訓練と県の訓練が2回あります。市と各町の訓練もあります。</p>
事務局	<p>同じ日に合わせる場所もありますし、個別にやっている組織もあります。150くらいある自主防災組織のうちの110くらいは、一年に一回はやっていると報告を受けています。</p>
会長	<p>女性が男性と同じ場に入って、学んだり経験をしたりする場があるというのは第一歩として大事だと思います。名前が入っているのを知らないというのはちょっと良くないですね。私は小野市役所に勤務していた時に、市が音頭を取ってやる防災訓練に行ったことがあります。男性の名前ばかりだったので防災グループに聞いたら、名簿が上がってくるのが男性ばかりだということです。それではだめだから、女性を2名入れてくれと言ったら、次の年にはきちんと入れて出してくれました。私が市役所を退職していなくなったらいつの間にかまた一文が抜けて、また男性ばかりになっています。逆に女性の方が意識が高くなってきて、自治会の自主防災グループに、プラスアルファで女性が入るようになっていきます。施策を打つというのはすごく大事だと思います。兵庫県は女性の防災士が多いのではないですか。</p>
委員	<p>宍粟市も防災・救助の方に、女性は必ず何人入れなさいと言われてます。必ず訓練には出ています。嫌がって出ませんという人は聞いたことがないです。</p>
会長	<p>宍粟市は意識が高いと思いますよ。断層はあるし、大水害にまではなくても毎年怖い思いをされているだろうし、避難所生活というのが目の前にあります。播磨地域はもっと意識が低く、災害が起こらないだろうと思っています。これは地域づくりへの切り口として考えていかれたらよいと思います。</p>
委員	<p>私が消防団にいた時に、女性の方に簡易消火栓の実演をしたことがあります。</p>

	<p>水圧が3キロあり、女性だけでは持てません。実際に訓練の場で消防団員がいて教えた時には分かっているけれど、小さなボヤがあっても水を飛ばすことはまずできません。訓練ではぶれながらもできますが、実際に火事場に行つて消すというのはいけません。訓練では何回か使わせてあげたいとは思いますが、実際には水圧に驚かれて無理と言われます。そういうことも含めて、女性の簡易消防隊のようなものがあれば変わると思うのですが。</p>
会長	<p>女性消防団はないのですか。</p>
委員	<p>ないですね。</p>
会長	<p>小野市は3つあります。一つはすごく勉強もして資格も取って頑張っています。避難所開設のことなどを一生懸命されています。男性の筋肉には負けます。でも一緒にやっているというのは大事で、一人では無理でも二人でできることはあると思います。地域の中に女性が入っているのがよいですね。</p>
委員	<p>最近、家にいて、地域の高齢者見守り隊に入ってくれないかと言われ、月一回会合があり行かせてもらっていますが、まだ全容が見えない状態です。必ず女性ばかりです。自治会長は男性で名前を書いてはあるけれど忙しく来られません。地域の高齢者を隊員で気をつけて声をかけながら、病院や施設に入らなくても見守っていこうという、意図が素晴らしいので抵抗なく入らせてもらったのですが、いいことではあるがなぜ男性がいないのかと思います。力の差は歴然としたことがあるので、男女ともに勉強の機会をもち、できることとできないことがあるのでその時には助け合うというのが理想です。力の差があるのでというのが基本で言われる話になりますが、その延長で、例えば高齢者の見守りは女性、自治会長は男性、消防は男性、仕方ない部分もありますが根本的に崩そうと思ったら非難を受けそうですが、本当は根底にある意識を平等にしなければと思います。</p> <p>ワークショップの30ページの3番、意識の低さという、これが根本かなと思います。男性も女性もそれが当たり前と思っています。</p> <p>施策の体系も、項目が増えて大変いいと思いますが、2番のあらゆる分野で、言葉がすべて5項目とも「女性の参画拡大」という言葉になっています。先ほどから言われているように、女性というより男性の、男女共にという、意図はわかるのですが言葉は女性の参画拡大という言葉になっているので、男女ともに頑張っていこうという言葉の方がよいと思います。</p>
会長	<p>施策の方向性の2-1のところですね、女性の参画拡大という言葉ばかりにな</p>

	<p>っているということですね。</p>
委員	<p>宍粟市は最近、性の多様性を考えた講演などがたくさんあり、それを見ると、「男は」「女は」というような、男女共同参画という言葉に矛盾を感じるものがあつたのです。私も宍粟市の中に性的少数者と言われる方が何人いるのかはわかりませんが、そこへの配慮はどうでしょうか。</p>
会長	<p>それは施策の方向性の4-2-1に文言があがると思います。多様な性の人が安心して生活できる環境の整備というのは、こうやって施策の方向のところに出てきているのは珍しいと思います。人権のところが多様な性というので具体的な施策では出てくるのですが、ここは宍粟市が力を入れようとしているところで、多様な性という言葉の中に、自分が男だ女だと思うだけではなく、誰もが交じり合ったグラデーションな存在であり、男らしい女の子でもよいし女の子らしい男の子でもよいというメッセージが含まれています。それともう一つは社会的弱者と言われるマイノリティの問題も入っているということです。これはおそらくここの特徴的な点ですね。</p>
事務局	<p>ここは特色と言える点で、学校における多様な性の理解促進などの具体的な施策をぶら下げていきたいと考えています。</p>
会長	<p>最初に男女共同参画という言葉はなぜ？と言われましたね。平成11年に男女共同参画社会基本法が通る時に、男女平等という言葉だったのです。ところが、男女平等は憲法で基本的人権の中に謳ってあるのです。謳ってあることをまた取り出していたので名前はどんどん変遷していき、その時に男女共同参画という言葉は造語したのです。それまではこんな言葉はなかったのです。私はちょうど平成11年から仕事をしています、20年経って男女共同参画という言葉が市民権を得てきたと思います。男女と分けるのもおかしいし、理念から言えば男が前にくるのもおかしくないかという議論もあつたのですが、女男もおかしいですし、もういいじゃないかということです。</p>
委員	<p>それであれば、宍粟市独自の基本理念にある言葉の方が、ぴったりですね。</p>
会長	<p>結局、男女共同参画の理念というのはそこなのです。男、女というカテゴリーに分けないで一人一人見ましょう、一人一人の良さを認めていきましょうというのが基本理念ということなので、今回のこの言葉は良いなと思っています。</p> <p>私から一つ、今回、国が改定して重点的に変えたところ、ここを頑張れといっているところは基本目標5のところ、ここを推進体制なのです。20年も経ってき</p>

	<p>て、理念は分かり、めざすところも分かっていたけれど足りないのは推進体制だということを国が指摘しています。推進体制に何を加えるかというのが大事になっています。先ほど副会長が言われたようにチェック機能、市民と行政のチェック機能かなと思います。行政の中のチェック機能は庁内推進体制の充実というところに具体的な施策で盛り込めるのではないかと思います。市民からのチェック機能はどこへ盛り込めるでしょうか。</p>
事務局	<p>今の流れで言うと、⑤の市民等との協働というところで、市民による推進員さんなどを設置できたらいいと思います。今日のような委員会が実際一次プランにもあったのですが、実現しませんでした。</p>
会長	<p>すごく大事なことだと思います。市民の皆さんが出てこられて今年の方角を聞いて、年間3回くらい集まり、最終的に評価も聞き、チェックも入り、だめな意見も各課にフィードバックできればいいと思います。推進委員会が具体的な施策としてぶら下がってくるということですね。</p>
事務局	<p>はい。7番のところでも市民会議という形で、いずれかの市民の方にかかわっていただければよいなと考えています。</p>
会長	<p>委員さんはどのような方を選ぶかというのはまた次回、具体的な施策が出てきた時に出していただきたいです。ぜひ学校の代表校長や学校、子育ての分野から入れて行ってほしいと思います。</p>
委員	<p>男女共同参画は裾野が広く計り知れないのですが、私の年代からすると、各年代層に応じて男女共同参画プランは違うのではないかなと思います。もしいろいろな施策を選べる場合に、子どもを作るのは男性だけ、女性だけではできないのと同じで、男性だけ女性だけと決めつけるのではなく、そういったところから施策を組んでいただきたいです。一つのことを男性も女性も一緒にすればどうかと思います。料理も一緒に目玉焼きを作るなど、一緒にやるところから入り込むとよいと思います。</p>
会長	<p>一緒にやると実は男性も楽しいと思います。地域の行事なども、おじさんだけ集まるより、若いお嫁さんがいたりする方が、女性も楽しいし男性も楽しい、みんなでやると楽しいなというのを子どもが見ている、それがよいと思います。</p>
副会長	<p>自治会の役員も交代制にしたらどうですか。</p>

委員	<p>自治会長は今一人で、100%男性です。将来、極論ですが二人制にして女性の自治会長を作れば、男女共同参画に少しでもつながっていけるわけです。一つのことを決めつけないで二人でやろうと、おしめを替えるのでも二人でやると男女共同参画に近づいていきます。</p>
会長	<p>その通りだと思います。それを女性も良しとし、男性も良しとしないといけませんですね。そのあたりの意識がまだまだだと思います。</p>
委員	<p>そこをうまく施策でできればと思います。</p>
会長	<p>実際に小野市が自治会に女性を登用したらお金を出すというのをやりました。一つの自治会で3年、通算5年やったのです。男性は女性がいたら助かると思いました。女性は、今まで男性は大変なことをやっていたのだなと思いました。それならば一緒にやろうと。今、女性の役員率がすごく上がっています。区長をやっているものはまだそれほどですが、それでも元女性校長が400軒あるような自治会の区長をやっています。彼女いわく楽しいということです。草刈りもするそうですが、やってみたらいいのです。</p>
副会長	<p>きっかけがないのですが、小野市の場合は条例ですよ。</p>
会長	<p>いや、あれは市長の判断です。やってしまえというのもいつか必要なのかもしれません。地域創生のお金をうまく使ったと思います。年間300万で5年間やりました。</p> <p>農業のことで最後に話をしたいのですが、たつの市で女性が集まり農業をやっているグループがあり、NPOになっているのですが、保育担当のお母さんにも手当てがあり、農業をやっている人にも手当てがありました。最低賃金までは出ていないのですが、とても生き生きしていました。今度は会社組織にしようかと、ヒガシマルと提携してねぎを作るそうです。農業の分野も女性がやろうという意識を持ったら、若い層は面白い層なので、すごく頑張ってやってくれています。今回農業という文言が入っているのであればここも大事にしていけないといけないと思います。</p> <p>では、今後のスケジュールについてお願いいたします。</p>
事務局	<p>その前に追加資料の説明をします。</p> <p>～事務局より、プラン後半部分のプランの内容（具体的な施策等）について、数値目標（案）について、資料に基づき説明～</p>

副会長	<p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul> <p>～事務局より、資料に基づき説明～</p> <p>今後、8月に2回、策定委員会を開催予定</p> <p>次回は8月7日10時を予定</p> <p>5. 閉会</p> <p>本日は暑い中熱心に協議していただきありがとうございました。次回は8月7日ということで、皆様もお忙しいと思いますがよろしくお願ひします。今日はどうもありがとうございました。</p>
-----	--

\*発言者の表記は、「会長」、「委員」、「事務局」とする。